

第1章

リーディングを構成するファクター と日本人学習者の問題点

1

英語力・リーディング力を構成する ファクターとは!?

英語学習者の中には、英語力は英語の語彙や文法を覚えさえすればUPすると思っている人がいるようですが、ホリスティックな英語教育（holistic English education）の見地から捉えれば、その他にも9つのファクターがあります。そこで第1章では、まず「英語力を構成する要素」について述べ、その後でリーディング力を構成する要素とリーディング上の20の問題点について述べたいと思います。まず、英語力を構成するのは次の11の要素です。

1. 音声面での能力 (phonetic skill)

正確でわかりやすい発音、リズム、ストレス、イントネーションで、すばやく外国語を発信（音読）したりキャッチしたり、ディクテーション（正確なヒアリング力）をする能力の高さ。

2. 語彙面での能力 (vocabulary)

認識&運用語彙量（専門用語ではなくビッグワードからスラングに至るまで語彙を正しく効果的に使いこなす）、多義語やイディオムの知識とそれらを効果的に使いこなす能力の高さ。

3. 文法面での能力 (grammatical skill)

英文の文法ミスを直したり、文法が正確な英語を発信したり、文法上の質問に答える能力の高さ。

4. リーディングの能力 (reading skill)

情報収集のための速読やスキミング力や、含蓄のある深遠な文献も理解したり、行間を読んだりする力や、また難解な読解問題を解く能力の高さ。

5. リスニング力 (listening skill)

豪速で話されるスピーチや、まとまりが非常に悪い、メッセージが非常にぼけた、矛盾した話のポイントをつかむ能力の高さや、メモを取りながら、あるいはメモを取らずに聞いて内容を再現することのできる能力の高さ。

6. 分析力・問題解決力 (analytical skill / problem-solving skill)

クリティカルリーディング（分析的・批判的リーディング）、様々な社会情勢分析と問題解決、ある問題のロジカルアナリシス（論理的分析）と解決、ディベートやエッセーライティングなどの能力の高さ。

7. 知識力 (general knowledge)

一般知識の量。政治、国際関係、経済、ビジネス、文化、哲学、歴史、地理、言語、サイエンス、テクノロジー、医学、心理学などの学問分野から、日常生活に関する雑学にいたるまで、どの程度の知識を備えているか。また、日々起こっている世界の出来事をすばやくキャッチしているかどうか。

8. 想像力&創造力 (imaginative and creative power)

直感的に物事の本質を見抜いたり想像したり、新しい語彙や表現を作ったり、独創的なアイデアを考え出す能力の高さ。

9. 比較言語文化的認識・翻訳力 (cross-cultural awareness & translation skill)

自国と他国の言語文化への洞察と翻訳能力の高さ。同時通訳力、字幕翻訳力なども含まれる。

10. ノンバーバルスキル (nonverbal communication skill)

発話者の声の調子、顔の表情、ジェスチャー、間、笑い、沈黙などのノンバーバルファクターを理解したり、巧みに使いこなす能力の高さ。

11. 人間関係処理能力・対人影響力・説得力 (people skill / persuasive power)

conflict resolution（紛争解決）を始めとする人間関係処理能力や、交渉、スピーチ、講演、説教などで人を説得したり人の心を動かしたり、インタビューや人生相談などで本音を引き出す能力（active listening skills）の高さなど。

いかがですか。1の音声面でのスキルは、特にリスニング、スピーキング、ライティング（リズムのいい英文を書くために）では重要ですが、リーディングにおいても「達人」は「活字が躍りだす」と言われるぐらいで、熟練の音楽家が譜面を読むだけで音楽が聞こえてくるように、英文を読むだけで「リズム」を感じ取れるわけです。またそれができる人はリズムのある英文をライティングすることができるという点で非常に重要です。

2、3、4、5の重要性は言うまでもないでしょう。6も極めて重要で、情報をより深く速く「受信・発信」するためには欠かせないものです。大学入試においても英語のスコアが全国トップクラスの生徒は国語や社会のスコアも高い生徒です。7も非常に重要で、「理解力」は、概して言えば**1. 言語による Input (全体の3分の1) と、2. 内容に関する知識 (全体の3分の1) を3. 分析・統合 (全体の3分の1) するところから生まれる**ので、リーディング力を含めて英語力を効果的にUPさせるには英語や一般知識ばかりでなく、分析力、論理的思考力を鍛える必要があります。特にタイムのような時事英語のリーディングでは、英語の語彙や文法といった英語の知識の重要性は3割ぐらいで、後の7割は英語以外の知識、スキルであったりします。これに対して英文学を味わうときは、5～6割ぐらいが英語力で、残りの4～5割が行間を読む力や文脈をつかむ能力を始めとする「国語力」「思考力」であったりします。

ここまでは、一般の英語のハウツー書でよく言われるものですが、これらと同時に英語の「受信力(リーディング&リスニング)」と「発信力(スピーキング&ライティング)」UPに非常に重要なのが次の8、9、10、11です。行間を読んだり、矛盾した話のポイントをつかんだり、状況の本質を見抜いたり、バーバルとノンバーバルコミュニケーションメッセージのギャップから「ハラ(本質)」を見抜いたり、様々な問題解決(problem-solving)を臨機応変にする能力を、カンの鋭さ(perceptiveness [=the ability to notice and understand what is happening or what other people are thinking or feeling], insight [=the ability to understand and realize what people or situations are really like], acumen [=the ability to think quickly and make good judgments])と呼んでいますが、これらを構成するのが4から11までの能力で、これらすべてが英語でのコミュニケーション能力の高さにつながっています。

さて、それらのスキルを効果的にUPするためによく取られる2つのアプローチが「留学」と「資格検定試験対策勉強&突破」ですが、それぞれ一長一短あります。

概して、前者は1、3、5においてはあまり功を奏していません。特に専門知識を深めるような大学院留学の場合はそうです。語学留学はレベルが低すぎ

て話にならないし、欧米の大学や大学院修了者が、留学後1級合格を目指して対策勉強している場合が多く、留学前にTOEIC 900点、TOEFL250点ぐらいで渡米して2～3年の留学の後にスコアは変わらず、語彙力、文法力もあまりUPせず、知識力UPに関しても、様々な日本の資格検定試験合格とは無関係の分野で起こっているために「資格3冠」も難しいという状況が起こっています。しかし、リスニング力やペーパーライティングを通じて英語による論理的思考力やリサーチ力がUPするし、真の英語の修得にとって重要であるが、資格検定試験対策では身につかない10、11の能力やcross-cultural awareness[competence] (異文化への洞察) はかなりUPするので、たとえ留学をしてTOEICやTOEFLのスコアが伸びなくても得るものは大きいはずです。

これに対して後者の方は、各検定試験にフォーカスした勉強をするので試験にパスしたり、スコアがUPしていけば英語のスキルもUPし、様々な知識も身につけ、「達成感」が得られますが、偏った人間(unsuccesful intercultural communicator)になる可能性があります。事実、準1級レベルの人でも、優れたガイダンスに基づく効果的なプログラムでインテンシブに勉強すれば、3～4年で資格3～5冠レベルには達しますが、資格検定試験には現れない力(視野の広さとコミュニケーションスキル[intercultural communication skill])を身につけるためには、3年ぐらいコスモポリタンな英語圏に留学したり、できれば非英語圏にも6カ国、半年ぐらいずつ、計3年ぐらい留学するのが理想的です。かつての私の学校の英検1級クラスの生徒で、一度目の受験ではB落ちだったのが、半年の受講で優秀賞をもらうまでに至った人がいましたが、その人は夫が客員教授として、アメリカ、イギリス、インド、中国、イラン、ドイツ、フランス、ギリシャなど世界8カ国で2年ずつ、日本政治史を教えていた配偶者の特権を活かして、各国で2年ずつ大学の授業に無料で参加し勉強したというマルチリンガルでした。その人の視野の広さ(global perspective)とintercultural communication skillは尊敬に値するもので、2次試験の時に試験官は返す言葉もなく黙ってしまい、まるで赤子のように扱われていました。

こういった2つのアプローチの一長一短を踏まえた上で、奮ることも落胆

することもなく、研鑽を積んでいきましょう。とにかく様々な英語検定試験合格を目指して勉強し、それらをクリアしていけば 10、11 以外のスキルはかなり UP していきます。特に英検 1 級対策勉強は、次ページに示すようにスキル UP の点で最もバランスの取れたものなので、このテスト合格を基盤にその他の資格検定試験にチャレンジしていくのが、リーディング力をはじめ様々な英語の知識・スキルを UP させるのに非常に効果的です。